

The background of the cover is a watercolor-style illustration of a tree-lined path. The trees are lush green, and the path is a mix of light and dark green, suggesting shadows and sunlight. In the foreground, several bicycles are parked on the left side of the path. The overall style is soft and artistic.

# Oasis

学内樹木マップ  
改訂版

Utsunomiya University

はじめに

# Oasis

春は、梅に始まり、桜の甘い香りと、白桃色が美しい

秋には、キンモクセイの香りが切なく漂い、桂の黄葉がメインストリートを飾る。そんな四季折々の表情を見せる木々…。

ところで、宇都宮大学にはどんな樹木があるのでしょうか。

私たちは、興味の赴くままに、校内植物紹介冊子「植物マップ」プロジェクトを立ち上げました。調べていくうちに、昔から人々の生活と関わりの深い木々が数多く存在することが分かりました。そこで、本冊子では、主として「人の暮らしと樹木」という観点から、面白いエピソードをもつ樹木を集め、紹介していきたいと思います。

最後に、昔から人々の生活を支え、安らぎを与えてきた木々が今もなお、あなたのオアシスになりますように…。

西野 真太



# 学内樹木 マップ



グラウンドと国際棟の間にある小道。緑がいっぱいで涼しく、木漏れ日があっても気持ちいい。



図書館の吹き抜けスペース。お弁当を食べたりおしゃべりをしたり…テーブルやイスもシンプルでかわいい♪



本部庁舎南側にある、教育学部の美術科の先輩方がつくったオブジェ。う～ん、芸術的!!



学内でもあまり知られていない温室。農学部の研究にも使われるが一般開放されている。



農学棟南東にある芝生。学生がスポーツをしたり、ベンチで日向ぼっこしたり…



緑あふれるフランス式庭園。幾何学模様が美しく、大学の憩いの場。

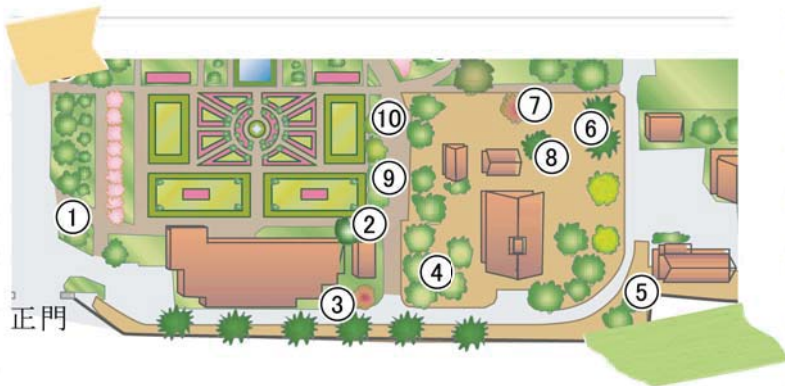
気分はフランス☆

幾何学的な造園と、池が素敵なコースです。

お昼ごはんを食べにきてもいいですね。

ここで見られる樹木

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1. シマサルスベリ | 6. アブラチャン |
| 2. シロモジ    | 7. ヤマコウバシ |
| 3. ドイツウヒ   | 8. クサギ    |
| 4. サンシュユ   | 9. キミジバフウ |
| 5. アオハダ    | 10. ノグルミ  |

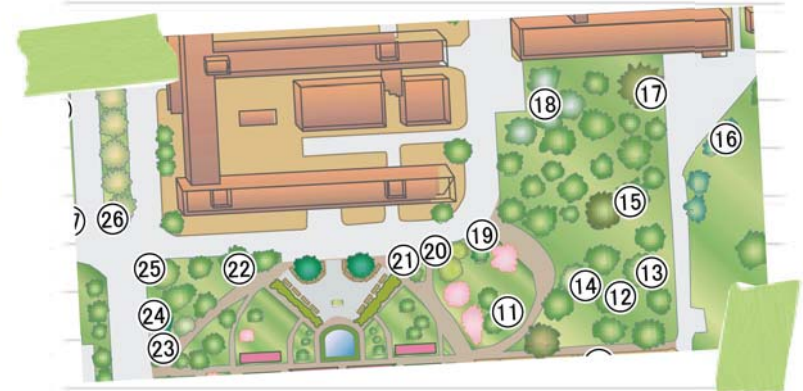


森の中に迷い込んだ不思議の国のアリス。

木漏れ日が優しいです。

ここで見られる樹木

- |               |          |
|---------------|----------|
| 11. ホオノキ      | 19. タラヨウ |
| 12. センペルセコイア  | 20. エンジュ |
| 13. ヒメシャラ     | 21. コブシ  |
| 14. アメリカシャクナゲ | 22. ブナ   |
| 15. ウバメガシ     | 23. ケヤキ  |
| 16. ボダイジュ     | 24. シナノキ |
| 17. コウヤマキ     | 25. シラカシ |
| 18. チャンチン     |          |

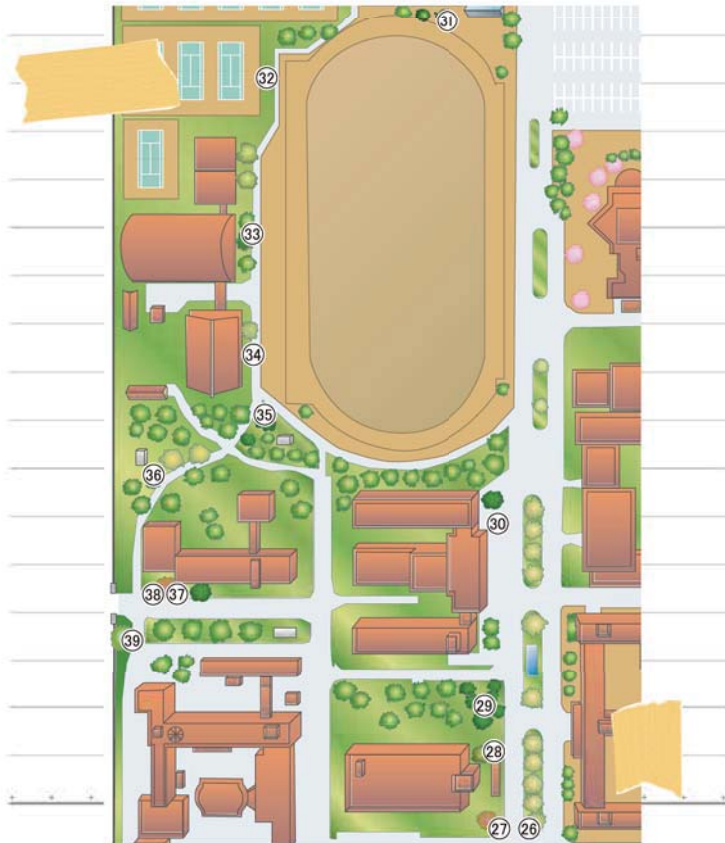


秋の桂の紅葉は必見！

大学の生命線です。

### ここで見られる樹木

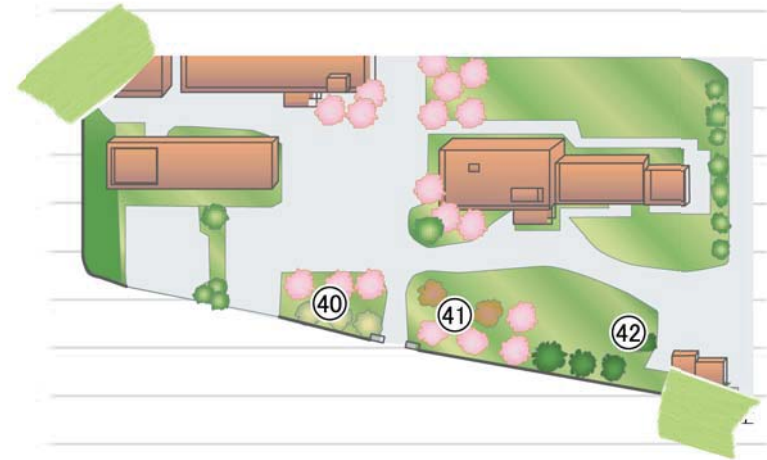
- |              |              |            |
|--------------|--------------|------------|
| 26. カツラ      | 31. オオバボダイジュ | 36. ユリノキ   |
| 27. トネリバハゼノキ | 32. イタヤカエデ   | 37. マンサク   |
| 28. ゲッケイジュ   | 33. カヤノキ     | 38. ゴヨウツツジ |
| 29. トチュウ     | 34. メタセコイア   | 39. サワグルミ  |
| 30. キンモクセイ   | 35. コウヨウザン   |            |



校舎の裏を通る不思議なコース。

### ここで見られる樹木

- 40. サイカチ
- 41. メグスリノキ
- 42. チドリノキ



目次

学内樹木マップ ..... 2  
 フランス式庭園コース ..... 4  
 イギリス庭園コース ..... 5  
 メインストリート・グラウンド周辺コース ..... 6  
 遊々歩道・本部庁舎コース ..... 7

標本温室 ..... 31  
 フランス式庭園 ..... 34  
 植樹記念碑 ..... 36  
 編集後記 ..... 37



樹木紹介

樹木索引

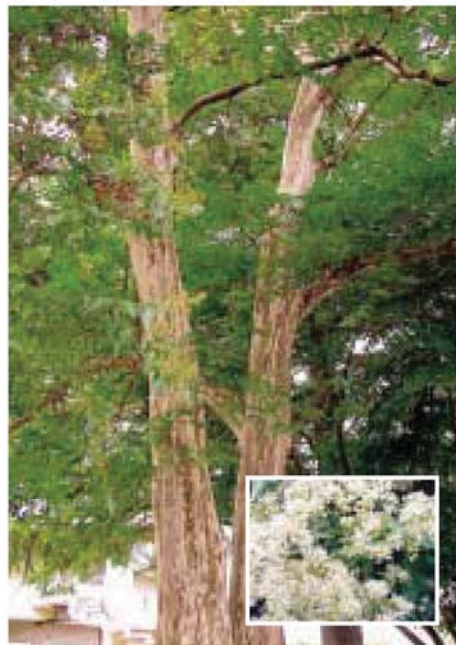
No.	頁	No.	頁	No.	頁
アオハダ	5 12	コウヨウザン	35 27	ドイツトウヒ	3 11
アブラチャン	6 12	コブシ	21 20	トチュウ	29 24
アメリカシャクナゲ	14 16	ゴヨウツツジ	38 28	トネリバハゼノキ	27 23
イタヤカエデ	32 25	サイカチ	40 29	ノグルミ	10 14
ウバメガシ	15 17	サワグルミ	39 29	ヒメシャラ	13 16
エンジュ	20 19	サンシュユ	4 11	ブナ	22 20
オオバボダイジュ	31 25	シナノキ	24 21	ホオノキ	11 15
カツラ	26 22	シマサルスベリ	1 10	ボダイジュ	16 17
カヤノキ	33 26	シラカシ	25 22	マンサク	37 28
キンモクセイ	30 24	シロモジ	2 10	メダスリノキ	41 30
クサギ	8 13	センペルセコイア	12 15	メタセコイア	34 26
ゲッケイジュ	28 23	タラヨウ	19 19	モミジバフウ	9 14
ケヤキ	23 21	チドリノキ	42 30	ヤマコウバシ	7 13
コウヤマキ	17 18	チャンチン	18 18	ユリノキ	36 27

## 1. シマサルスベリ (島百日紅)

ミソハギ科 サルスベリ属 *Lagerstroemia subcostata* var. *hirtella*

### 白い誘惑

台湾、奄美大島、屋久島などに自生しています。本州では植物園以外ではあまり見られない珍しい樹木でしたが、近年は公園、ゴルフ場などにも植えられるようになりました。戦前から本学の本部棟の裏側にあたるこの位置にあり、朝な夕なに教室、実験室へと行き来する学生たちをずっと見守ってきた本学のシンボリックな名木です。亜熱帯の樹木なので、北関東では成長が遅く、この木の樹齢はおよそ100年に近いものと考えられます。初夏のころに、小さな純白の花が密集した花を咲かせ、甘い芳香を放ち、蜜蜂が大量に集まってきます。中国、台湾ではこの花を中華料理の材料として使うほか、葉を薬用にもする有用木です。



## 2. シロモジ

クスノキ科 クスノキ属 *Parabenzoin triloba*

### あなたのお口を爽やかに

東海地方以西の山地に自生する落葉低木です。葉の形がおもしろく、春に咲く黄色の小花も美しいことから近年は庭園樹として利用されるようになりました。シロモジは高級爪楊枝の原料になる同じクスノキ科のクロモジに対してつけられた名と思われませんが、このシロモジも爪楊枝の原料として使われます。

## 3. ドイツトウヒ (ヨーロッパトウヒ)

マツ科 トウヒ属 *Picea abies*

大きくなったクリスマスツリー。ヨーロッパ北、中部の原産ですが日本でも鉄道防雪林や高速道路の地吹雪防止林として使われています。また、幼木がクリスマスツリーとしても使われるおなじみの木です。生長がとても早く、クリスマス後に庭へ植えるとすぐに大きくなり困るほどです。壮年に達した木は枝先が垂れ、独特の風情を見せてくれます。北、東ヨーロッパの鉄道や幹線道路はこのドイツトウヒの厚い防雪林に守られています。



## 4. サンシュユ (ハルコガネバナ)

ミズキ科 ミズキ属 *Cornus officinalis*

### 早春のシグナル

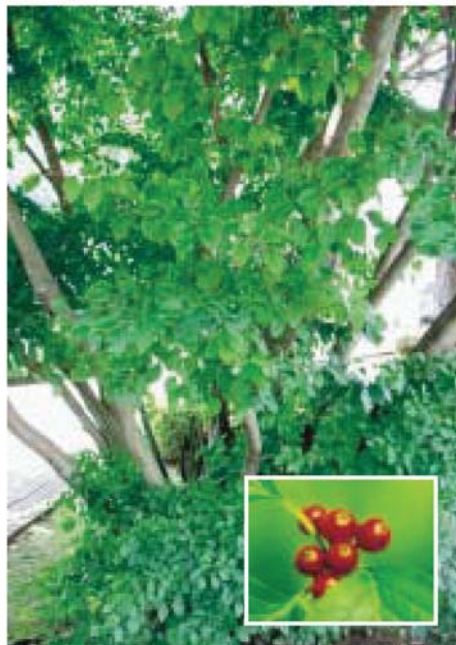
中国原産の木ですが、江戸時代の中期(享保期)に渡来したといわれています。早春に樹冠いっぱいに細かな黄色の花をつけ春の到来を真っ先に知らせてくれます。秋には紅色の美しい実をつけるので「アキサンゴ」の別名もあります。本学では例年卒業式の頃に咲き始め、四月の入学式の頃に満開になります。



## 5.アオハダ

モチノキ科 モチノキ属 *Ilex macropoda*

100の名をもつおいしい木  
北海道から九州まで各地の山地にごく普通に自生しています。日本の樹木の中で最も代表的な食用樹の一つで、新芽を食するほかに茶の代用としても用いられてきました。食用として古い歴史があるため、全国各地で100以上の呼び名があり、栃木県内でも「こうしゅうぶな」「こしゅうぶち」などと呼ぶ地方があります。雄、雌があり、雌木は秋に美しい赤い実をつけます。



## 6.アブラチャン (ムラダチ)

クスノキ科 シロモジ属 *Parabenzoin paraecox*

ともしび  
灯の木

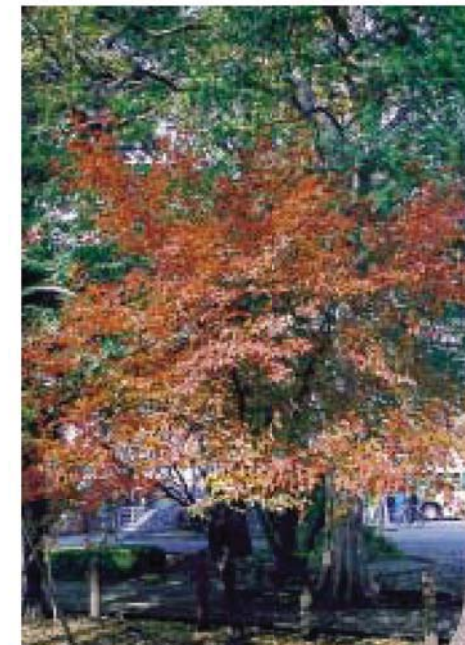
本州以南の深い山地に自生する落葉低木です。根元からたくさんの若木が立ち上がってくることからムラダチ(群立)の別名があり、深山ではこれ以上の大株をよく見かけます。しなやかなこの若木を使って雪道を歩くかんじきを作り、あるいは牛の鼻輪などにも利用されました。アブラチャンの名は実から灯用の油を採ったこと、あるいは、枝によく油を含み薪に適したことなどによるものと思われます。

## 7.ヤマコウバシ

クスノキ科 クロモジ属 *Benzoin glaucum*

親心の木

関東以西の山地にごく普通に自生し、翌春の出芽まで、枯葉をしっかりとつけているので、山中でもよく目立つ木です。この現象を子孫が育つまでしっかりと家を守る姿になぞらえ「譲り葉」といい、この木を神聖木として神事に用いる地方もあります。食用木としても有名で、新葉を乾燥して粉状で保存し、団子に混ぜるほか、粘り気を利用してそばのつなぎにも用いられました。



## 8.クサギ (臭木)

シソ科 広義のクマツヅラ科 *Clerodendron trichotomum*

最強の悪臭、最高の美味

北海道から九州まで日当たりのよい山地、原野にごく普通に見られる小高木です。漢字名が示すように葉に強い臭気があることで知られています。しかし、驚くことは昔からこの木の若葉を「臭木菜」といって混ぜご飯や味噌汁の具にする食習が各地にあることです。ゆでたくわんを抜く際に出る悪臭のすごさは、軒先のつばめが巣から転落するほどとたとえられています。さらにこの木の幹に食い込んで生活する「クサギコウモリガ」の幼虫は「コウモリガ」の幼虫の中で最高の美味だと古い書物に記されています。夏には白い小花が密集して咲き、その強い香気と蜜に誘われアゲハチョウの仲間が沢山集まってきます。人にも虫にも人気がある不思議な木です。



## 9.モミジバフウ (アメリカフウ)

マンサク科 フウ属 *Liquidambar styraciflua*

カエデとは無縁だけど

北米から中米が原産の木で、葉がカエデに似ているためにこの名があります。暖地でも晩秋に美しい多彩な紅葉を楽しむことができるので1970年頃から全国的に街路樹や庭園樹として利用されるようになりました。生長の早い木ですが本学のモミジバフウのような古い大木は植物園以外では見ることができません。フウの漢字として楓が用いられますが、カエデとは無縁の木です。



## 10.ノグルミ (ノブノキ)

クルミ科 クルミ属 *Platycarya strobilacea*

魚さんご注意！

東海地方以西の暖地に自生する木で、北関東の庭園に植栽され、このような大木に育ったノグルミはとても珍しいものです。クルミとは名ばかりで、イメージがまるで異なる小球果がなり、これに含まれるタンニンが昔から染色や皮なめしに用いられてきました。また、「ドクグルミ」の別名があるように葉には魚毒があり、枝葉を川に流して魚をとることに用いられました。

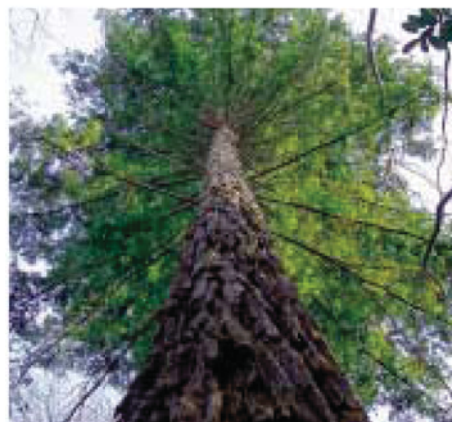


## 11.ホオノキ (ホオガシワ)

モクレン科 モクレン属 *Magnolia obovata*

青春時代の足元に

全国各地の山地に自生する落葉高木です。材は細工しやすい特徴があり建材のほかに彫刻用材や板画の板木として珍重されます。また、材が軽いことから下駄材として桐材と共に大変重用された木です。特に高下駄の歯にはもっぱらこの材が使われたので、高下駄は別名で「ホオバ(朴歯)」と呼ばれました。宇都宮大学の前身、高等農林学校時代の学生たちも日常的にこのホオバをはき、マントをひるがえして大道を闊歩した時代があったのです。



ヨセミテ国立公園内で倒木した  
センペルセコイアの大木

## 12.センペルセコイア (レッドウッド)

スギ科 セコイア属 *Sequoia sempervirens*

世界一のノッポの木

北米のカリフォルニア州中北部の海沿いの地域に多く自生し、有名なヨセミテ国立公園内では驚くほどの巨木を数多く見ることができます。その大きさは想像を絶するほどで、根元にできた洞でかつて原住民の一家が暮らしていたという木が今でも生長を続けています。しかし何とんでもこの木の自慢は背の高さと寿命の長さで、樹高は111mの世界最高記録を持ち、樹齢も2000年以上も生育が続けるとされています。これに較べると本学の木はまだ、まだほんの幼木というほかはありません。近年、日本でも公園樹や街路樹として植えられようになりましたが、よく生育する地域はあまり広くないものと思われます。

## 13.ヒメシャラ

ツバキ科 ツバキ属 *Stewartia monadelph*

## 森のおしゃれさん

本州中部以南の深い山地に自生する落葉高木です。樹皮が美しい赤褐色を帯び、夏には可憐小輪の白花をつけることから庭園樹として人気のある木です。イギリス式庭園内のヒメシャラは、庭木としての手入れがされず、森林下で育った自由な樹形として珍しい姿を見ることができます。秋には美しく紅葉します。



## 14.アメリカシャクナゲ (カルミア)

ツツジ科 カルミア属 *Kalmia latifolia*

## まれに見る 古木

北米東部原産で、大正期に日本に渡来した美しい花木です。分類的にはシャクナゲの仲間ではありませんが、華やかな花が枝先に冠状に集まって咲くことから自然にこのような呼び名ができたものと思われます。この木は大正末年に植栽されたもので、これだけの古木はめったに見ることができません。



## 15.ウバメガシ (バミ)

ブナ科 コナラ属 *Quercus phylllyraeoides*

## 焼肉屋さんでおなじみ

関東以南の山地に自生している常緑のカシの一種です。上質の堅炭である備長炭(びんちょうたん)の原料として知られています。最近では充分に生長した原料が足りず、備長炭は中国から輸入されるようになりました。太い木に育つのは遅いかわりに萌芽力が非常に強く、庭の生垣や海岸の防風、防潮林としてもつかわれる貴重な木です。



## 16.ボダイジュ (菩提樹)

シナノキ科 シナノキ属 *Tilia migueliana*

## 実は仏教と無関係

中国原産で、日本にも古い時代に渡来し、この木の下で釈迦(さとり)が悟をひらいたとする誤認から各地の寺院に植栽されています。しかし、釈迦由来の菩提樹は全く別種のクワ科のインドボダイジュで、イチヂクに近い樹木です。中国ではこの木を椴と呼び、日本だけがこの木を菩提樹として仏教と結び付けています。一説には秋に実る球果で数珠(じゆず)を作ったからといわれていますが確かではありません。

## 17.コウヤマキ

コウヤマキ科 *Sciadopitys verticillata*

## 人気上昇中

福島県以南の山地に自生する日本の固有種です。現在では幹径1 mを超える大木は神社等の記念物を見るのみですが、かつて日本の古代社会にあつては大径木が無数にあったと考えられ、古代の貴族、豪族の棺桶はもっぱらこのコウヤマキで作られていました。水に強いので船材としても使われ、古代朝鮮にまで輸出されていたとする説があります。また、最近では悠仁親王のお印の木に選定されたことでもわかに庭園樹としての人気が高まっています。



## 19.タラヨウ (多羅葉、ハガキノキ)

モチノキ科 モチノキ属 *Ilex latifolia*

## 葉書の木

本州中部以南の山地に自生し、もともとは主に寺院に植えられることの多い樹木でした。その理由は、古代のインドや中国で葉裏に経文を書くことに用いた「タラジュ(ヤシ科)」という樹木があり、日本へも江戸時代に移入されていたことによるとされています。タラヨウはまったく別種の木ですが、葉裏に堅く、鋭いもので文字を書くとき黒く変色して文字が浮かび上がります。紙が貴重な時代には実際に通信、連絡に使われていたと考えられますが、現在は葉書として投函することはできません。

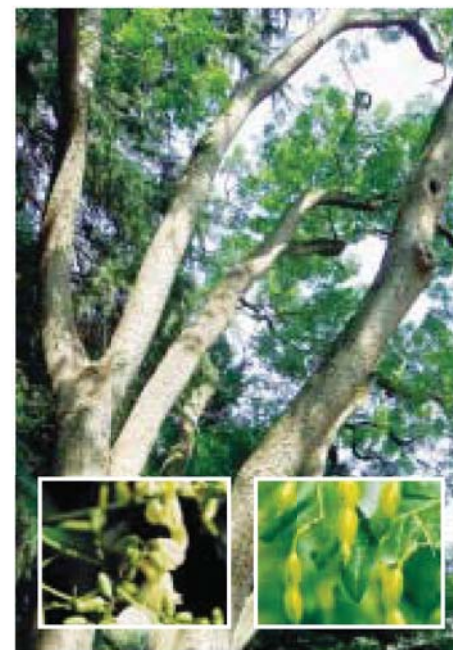
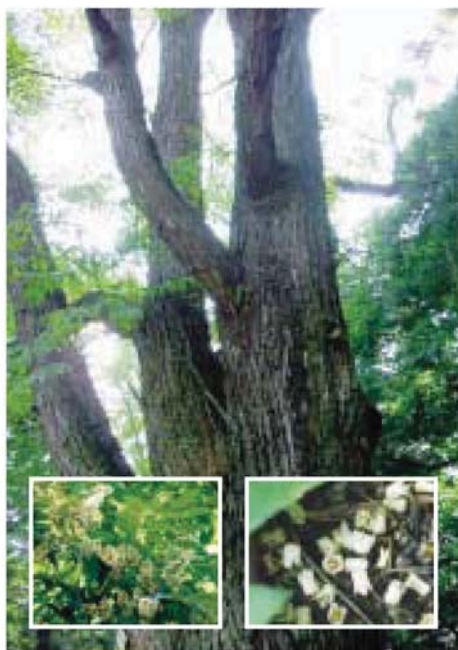


## 18.チャンチン (香椿(ヒャンチン))

センダン科 チャンチン属 *Cedrela sinensis*

## 春限定のかくし芸

中国原産の高木で、日本でも広く庭園樹として植栽されています。生長が特に早く、若木の間はまっすぐに直立して箒状に伸びていくので「テンツク(天突く)」「クモヤブリ(雲破り)」などの呼び名をもらっています。しかし、本学のチャンチンのように壮齢の大木になると樹形のイメージがかなり変わってくるのが分かります。この木の見所は春の芽出しが、透き通るような桃、紅、紅紫色などに変わる美しい芸を見せてくれることです。また、この新芽にほのかな芳香があることから中国では香椿(ヒャンチン)と呼び、食用として珍重されています。日本名のチャンチンはヒャンチンが転じたものと考えられます。



## 20.エンジュ (槐(エンジュ))

マメ科 クララ属 *Sophora japonica*

## 大臣の木

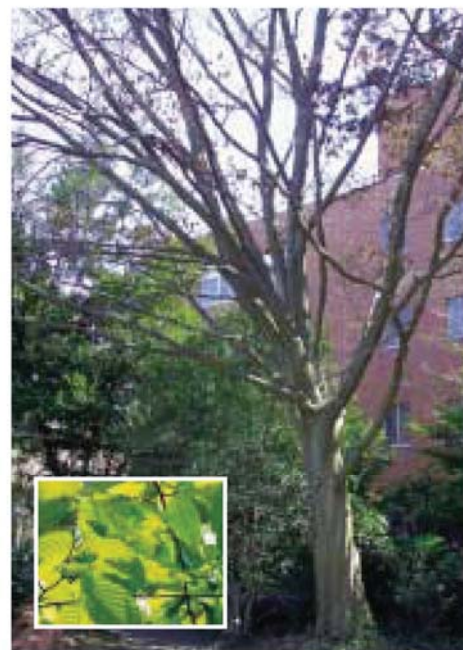
中国原産の木ですが、古くから日本で植栽されているため学名がジャポニカ(日本の)とされているほか、英名では「ジャパニーズ・パゴダ・トゥリー(日本の仏塔の木)」と名づけられています。槐は中国古代王朝の周の時代から最も位の高い樹木とされ、槐位は大臣の地位と同義に用いられました。日本の中世の歌集「金槐和歌集」も右大臣実朝の歌集の意味と解されています。また、このようなことから、中国では古来この槐がいろいろの故事成語として用いられています。例えば「面桑麻槐」といえば、小物に向かって言っているが、実は大物を批判していることのとえになります。そのほか、日本では文字の作りから魔除けの効果があるとして、家の新築後に北東の方角にこの槐を植える迷信が行われてきました。近年では、公園樹や街路樹として広く植栽されるようになりましたが、病気に侵されていることが多く、本学の槐のような見事な大木に育っている例はあまり多く見られません。また、この木の若葉も食用になり、茶としても用いられるほか、つぼみと実は漢方薬に、樹皮は染料として使われるなど捨てる部分のない有用木です。

## 21.コブシ

モクレン科 モクレン属 *Magnolia kobus*

## 田の神、山の神の宿る木

全国各地の山地に普通に見られる落葉高木です。進化の面では広い範囲の花木の祖先に相当する種であるとされています。又、古くから農民の生活や信仰と結びついた伝説が多く、特に、東北、北陸地方にはコブシは田の神、山の神の依り代(宿り所)とする習俗が各地に見られました。山でこぶしの花が咲けば田起しを始めるという農事暦の役割も果していた大切な木です。



## 22.ブナ (ホンブナ、ソバグリ)

ブナ科 ブナ属 *Fagus crenata*

## 白神さんちでムレてます

北海道南西部、本州、四月、九州の山地に自生していますが、本州の低山ではこれと近縁のイヌブナが支配的です。高地または寒冷な地方に分布する木ですが、大群生することが多く、中でも青森・秋田県境の西に広がる白神山地のブナ原生林は日本最大のもので、ソバグリの名は実がそばに似ているからで万葉集には「ソバギ」の名で登場しています。古代人にとって大切な食糧の一つであったようです。



## 23.ケヤキ

ニレ科 ケヤキ属 *Zelkova serrata*

## 大槻さんは大ケヤキ

北海道を除く日本のほぼ全域と朝鮮半島、中国に分布、植栽されています。漢名では櫨あるいは槻とも書き、槻は大槻(おおつき)などの人名にも使われています。材木関係者の中では春の芽出しの色で赤芽ケヤキ、青芽ケヤキに区別して扱われ、槻は青芽ケヤキを指し、材質は一格落ちるとしています。かつては櫨買い、櫨師などとよばれる伐採適期のケヤキを探し、買い取るプロが各地を巡回していました。また、各地にケヤキ専門の製材所があり、ケヤキ取人達によって臼、家具、建築材、船の竜骨などさまざまな用途に加工されました。このケヤキは、位置と樹齢から推定して本学の創立当初に植えられ、現在まで残っている数少ない樹木の一つであると考えられます。ケヤキは壮齢木の木姿が美しく、日本が世界に誇る樹木の一つです。

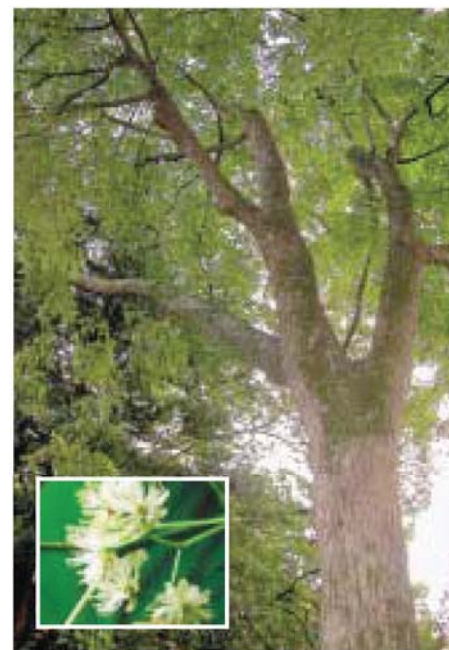


## 24.シナノキ

シナノキ科 シナノキ属 *Tilia japonica*

## 木綿以前の主役

全国の深い山地に見られる木です。木綿が日本へ渡来する以前の織布植物原料として最も重要な役割を果たしていました。シナとはアイヌ語で「結ぶ」の意味とされますが、転じて日本語では「繊維」を意味する古語となり、信濃、更科などの「しな」もこれを語源とするという説が有力です。樹皮から長い繊維をとり、これに撚りをかけた糸で作られた穀物袋や魚網などは比較的に新しい時代まで使われていました。



## 25. シラカシ (白樫)

ブナ科 コナラ属 *Quercus myrsinaefolia*

## 園芸界ではルーキー

福島県沿岸部以南の本州から九州まで自生する常緑のカシですが、岩手、山形、宮城などより寒冷な地域でも農具の柄などを作る実用目的で植栽された数少ない常緑広葉樹です。また、関東地方では冬期の風を除ける高垣として植栽が多く行われています。しかし、園芸的な利用はというとその歴史は非常に新しく、1977年(昭和52年)に筑波学園都市東大通に約3km(6号国道から大角豆交差点)にわたり植栽された並木が初めての試みでした。当時は苗木の生産も無く全て山から掘り出したといわれています。以来、全国的に公園樹、緑化樹としての利用が広がっていきました。農家の裏庭などに植栽されている例は別として、庭園に植栽されたシラカシで、このような大木はほとんど見ることはできません。位置と樹齢から推定して、創立当初に植えられた樹木の一つと考えられます。また、この木は長い間に二本の木が融合して、一本の双幹樹になっています。



## 26. カツラ (桂)

カツラ科 カツラ属 *Cercidiphyllum japonicum*

## 偉くなれる木

全国各地の山地、谷沿いの地に主に自生する日本の代表的な美木の一つです。生育条件がよい土地では、まっすぐな大木に育っていくので「出世の木」と呼ばれることもあります。本学正門通りに列植されたカツラは1965年前後の頃に当時の大政正隆学長の発案で植えられたもので、根元の乾燥を防ぐ目的で樹冠が大きく広がっていくように仕立てられています。桂は材としても狂いが少ない優良材で、高級建材、碁、将棋盤、彫刻材などに広く用いられます。なお、中国で桂といふこの木ではなく、モクセイかニッケイを指します。有名な景勝地桂林の地名もモクセイに因むものです。



## 27. トネリバハゼノキ (カイノキ、ランシンボク)

ウルシ科 ピスタミア属 *Pistacia chinensis*

## 学校記念樹の定番

中国、台湾が原産の落葉高木で、秋の紅葉が非常に美しい木です。中国では孔子廟の境内で必ずといってよいほどこの木を見ることができます。また、関連して学校や図書館の記念樹としてもおなじみの木です。この木はナッツのピスタチオの近縁ですが、実よりも若葉が美味とされています。

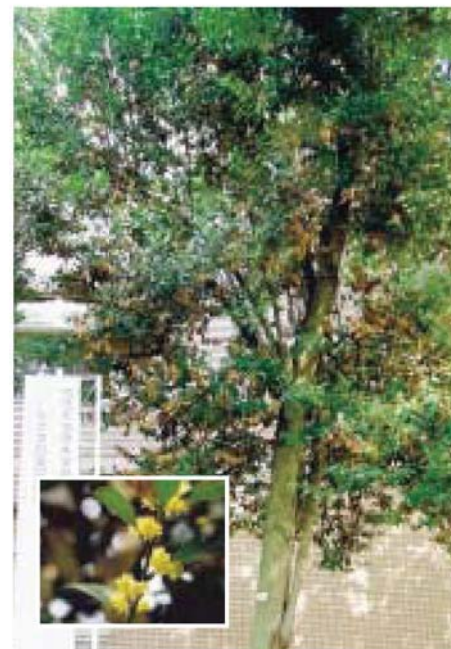


## 28. ゲッケイジュ (月桂樹)

クスノキ科 ゲッケイジュ属 *Laurus nobilis*

## メダリストに贈る木

地中海沿岸地方の原産の常緑樹で、日本へは明治末期に渡りました。花と葉に芳香があり、乾燥させた葉がさまざまな西洋料理のスパイスとして使われることで有名です。古代のギリシャ、ローマ世界ではゲッケイジュが勝利と栄誉の象徴とされ、競技の勝者や戦功将軍にゲッケイジュの枝で作られた冠が与えられたことから、今日でもマラソン勝者には「桂冠」が与えられています。また、日本では日露戦争の戦勝記念樹として各地に植栽されたと伝えられています。



## 29.トチュウ

トチュウ科 トチュウ属 *Eucommia ulmoides*

### 健康をサポートする木

中国原産の落葉高木で、日本へは大正時代に移入されました。葉が健康に良いトチュウ茶になることで日本でも広く知られるようになった木です。英名がグッタペルカトゥリーであるようにゴム原料がとれる木でもあります。しかし、含有量が少なく現在はこの面で産業的に利用されることはなく、中国では強壯剤、鎮痛薬を作る薬木として栽培されています。



ギンモクセイ

## 30.キンモクセイ

モクセイ科 モクセイ属 *Osmanthus fragrans var.aurantiacus*

### 秋を感じる強い香り

中国原産のモクセイの一変種とされ、モクセイの基本種ギンモクセイや日本の九州にも自生するウスギモクセイに較べて香りが強く、花色も濃く鮮やかです。日本へいつ渡来したかは諸説があり不明です。樹勢は一般に非常に旺盛で関東地方でも単木で一抱え以上もある大木を各地で見ることができます。樹齢も長く、伊豆三島大社には樹齢1200年と伝えられる古木がありますが、これはウスギモクセイです。中国には月にはモクセイが茂っていてそのために太陽のように明るく輝くことができないのだという有名な伝説があります。なお、中国で「桂」と書くと日本のカツラではなくモクセイまたはニッケイを指します。桂花茶はキンモクセイの干花を混ぜた香りのよい高級茶です。

## 31.オオバボダイジュ

シナノキ科 シナノキ属 *Tilia maximowicziana*

### もっと遠くへ

北海道、本州の中北部に自生しています。日本の山地に自生する三種類のシナノキ属の木の中では最も葉が大きいのでこの名があります。初夏に淡黄色の花を密集して咲かせ、蜜蜂がたくさん集まってきます。晩秋の頃、球果が実ると、シナノキ科特有の翼苞をプロペラのように使って散っていきます。



## 32.イタヤカエデ

カエデ科 カエデ属 *Acer mono*

### 森のオーケストラが

### 聞こえますか？

全国の山地に自生し、特に北海道には巨木が多く自生しています。丈夫で緻密な木目の美しい柁目材がとれるため、高級家具、スキー板のほか、バイオリンの裏板、高級スピーカーボックス、ピアノのアクション材などには欠かせない有用木です。秋には淡く紅葉を混ぜた独特の黄葉がとても美しいカエデです。

## 33.カヤノキ

イチイ科 カヤ属 *Torreya nucifera*

## 贅沢な一局

東北地方宮城県以南の山地に自生する常緑針葉樹です。樹高30m、直径90cmもの大木に育つ木で、かつては高級建材や彫刻材、高級基盤材として使われました。しかし、現在はこのような大径木は山林からはほとんど切りつくされ、日本産のカヤ<sup>まさ</sup>柾目を使った最高級基盤は1000万円を下らないといわれています。また、直径1～2cmもある大きな実(ナツ)には脂肪が多く含まれ、かつては食用として重用されていました。



## 34.メタセコイア

スギ科 メタセコイア属 *Metasequoia glyptostroboides*

## 恐竜が食べていた木

化石時代の植物として研究されてきましたが、1943年(昭和18年)に中国四川省、湖北省で生きた植物として発見され、「生きた化石」として世界中の話題になった落葉性の喬木です。日本へは1949年(昭和24年)にアメリカ経由で渡りました。さし木苗の生産が容易なことから日本中に緑化樹として広く普及しています。樹形の美しい木ですが、あまりに生長が早い<sup>速</sup>ため、落葉の問題など生活環境との調和に課題が残りがちです。

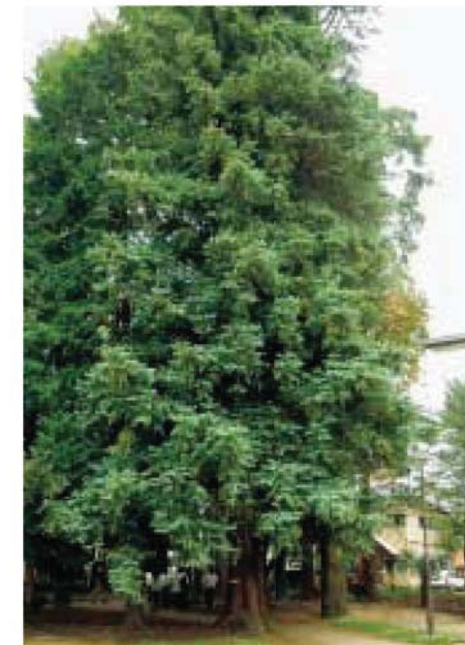


## 35.コウヨウザン (広葉杉)

スギ科 コウヨウザン属 *Cunninghamia lanceolata*

## 黄門様御用達のスギ

中国原産のスギの一種で、日本のスギよりもはるかに早く生長します。シロアリがつきにくいスギとして江戸時代に水戸藩で大きいその植栽が奨励されたという記録が残されています。しかし、現在、水戸市周辺にコウヨウザンの老木、巨木は見当たらないことからスギのような長い寿命の木ではないと考えられます。



## 36.ユリノキ (ハンテンボク)

モクレン科 ユリノキ属 *Liriodendron tulipifera*

## どっちに見える？

北米東部の原産で、日本では化石としてのみ発見されています。日本へ導入されたのは明治初年で、東京新宿御苑の中庭に現在もある樹齢130年を越えるユリノキはその当時に植えられたものです。5月頃に咲く大輪の花はチューリップの花にたとえられ、英名もチューリップ・トゥリーですが、日本でのみユリノキと呼ばれています。その由来は、大正天皇が皇太子時代に東大小石川植物園を見学され、「ユリの花のようだ。」と感想を述べられたことにあるとされています。また、ハンテンボクとも呼ばれる理由は、葉の形が衣類の半纏(はんてん)の形に似ているからです。1970年代から公園樹、街路樹として全国的に植栽されるようになりましたが、倒木の問題など緑化樹としての利用に研究の余地が残されています。秋の黄葉がとても美しい木です。



## 37.マンサク

マンサク科 マンサク属 *Hamamelis japonica*

## 春一番

北海道南部以南の日本各地の山地に自生する落葉小高木です。早春二月末頃から短い紐状の黄色い花を枝の先々いっぱいにつけ春の訪れを告げてくれます。どこか農業の満作を祈念した印象の名ですが、一説に「真まっ先さき」に咲くの意がいつしかなまって「ままっさく」に、さらに「まんさく」に転じたものともいわれています。また、別の説では「先さきず咲く」のなまりだともされています。



## 38.ゴヨウツツジ (シロヤシオ、マツハダ)

ツツジ科 ツツジ属 *Rhododendron quinquefolium*

## 木登りができるつつじ

東北地方から西日本の太平洋側の山地に自生する落葉性の美しいツツジの一種です。5～6月ごろに咲く花は透き通るように白く、かわいらしく、また、清楚な花です。枝先に五葉が車状につくことからこの名がありますが、樹齢と共に幹肌が荒れていかにも古木然とした肌になることからマツハダともよばれています。老木は樹高5m、幹径20cmにもなり、床柱に使えるほどの木になります。



## 39.サワグルミ (カワグルミ)

クルミ科 サワグルミ属 *Pterocarya rhoifolia*

## 今は並木、昔は鉄砲

全国各地の山地溪谷沿いの地に生える落葉高木です。クルミの仲間であっても食べられるナッツはならず、長い20cm以上に達する果穂が垂れ下がり、鑑賞上どこか味のある木です。近年、都会の街路樹にも使われるようになりました。材は細工がしやすく、重量もあるので戦時には銃の台座としてもっぱら加工された歴史を持っています。よく似た木にシナサワグルミがあり中国では街路樹としてよく利用されています。



## 40.サイカチ

マメ科 サイカチ属 *Gleditsia japonica* Mig

## 代用石鹼の木

本州中部以南の産地や河原に自生する落葉高木です。幹や枝に鋭くとがったとげがあるので注意が必要です。夏から秋にかけて20～30cmにもなる大きな豆果を実らせませす。豆は味が悪くあまり食べられませんが、新葉は山菜として食用に供せられます。又、若豆は温湯中でもむとよく泡立つので、物資不足の時代には石鹼の代用に用いられた歴史があります。

早角子さいかちの 実はそのまもの 落葉かな  
芭蕉



## 41.メグスリノキ

カエデ科 カエデ属 *Acer nikoense*

### 瞳すつきり

山形、宮城県以南の山地、特に湿気のある土地に生える落葉高木性のカエデです。暖地でも美しい紅葉が楽しめる木ですが、カミキリ虫の害があり、暖地ではあまり長く栽植できないことが残念です。昔から材を煎じて目を洗う薬木として使われていたことからこの名があります。



## 42.チドリノキ (ヤマシバカエデ)

カエデ科 カエデ属 *Acer carpinifolium*

### カエデに見えますか？

本州以南の温暖な地を好んで生えるカエデです。メグスリノキと共に葉がカエデらしくないカエデの代表的な木です。ヤマシバのシバは薪たきぎのことで、ヤマシバカエデとは薪にする雑木のようなカエデという意味になります。それでも種子をみるとまぎれもなくカエデで、その形が鳥のチドリに似ていることからチドリノキとも呼ばれるようになったといわれています。

「チドリノキ 葉」を以下のサイトから使わせていただきました。

<http://ganshuku.cool.ne.jp/index.html>

標本温室

庭園沿革



本学には一般開放されている温室があります。温室には湿潤熱帯気候区(多雨林館)、乾燥気候区(砂漠館)、サバナ館の3つの温室があり、気候区別にさまざまな植物を観察することができます。サボテンや、観葉植物、フルーツの樹、また、店頭ではあまり見ることのできない珍しい植物も見ることができます。植物の種類は200~300種程度で、1年中なんらかの植物に花が咲いているため、いつ来ても花を観察することができます。この温室には一部研究用の植物もありますが、手をふれず静かに見る分には誰でも自由に入り、観察することができます。入り口は温室の西側(道の反対側)にあります。初めて利用するときは、管理人に一声かけてくれればそれで大丈夫で

す。管理人の方は優しく、とても歓迎してくれるでしょう。そこにはジャングルのような不思議な世界が広がっています。



砂漠館

### 温室利用時の注意点

- むやみに植物には触らないで下さい。サボテンにはとげがあり、一度刺さるとなかなか抜けないものもあります。
- 入るときは多少汚れてもいい服で入りましょう。温室内は意外と狭く、歩くだけで植物と接触します。また、地面は土なのでハイヒールなどでの来室は避けてください。
- 多雨林館では、夕方人工的に雨を降ら

せていますので、16時30分前に入館されるほうがよいでしょう。

- 初めての方は管理室へ一言かけてください。基本的に入館は自由ですが、細かい注意点などを聞いてから入館してください。

### ● 参考

バナナ、グアバ、パパイヤ、マンゴー、パッションフルーツ、アボカド、レモン、ミラクルフルーツ、コーヒー 探してみよう！



多雨林館



サバナ館

開室日/平日9:00~17:00頃(管理人がいる間)  
 連絡先/管理人室 TEL028-649-5406  
 Mail(管理人)  
 khosino@cc.utsunomiya-u.ac.jp(星野)  
 katohnor@cc.utsunomiya-u.ac.jp(加藤)



フランス式庭園は宇都宮百景に選ばれた、とても美しい庭園です。この庭園には様々な樹木が植えられており、一年を通して四季の花々が咲き乱れています。

宇都宮大学は大正12年(1923)宇都宮高等農林学校として開校しましたが、樹木が一本も植えられていない畑地の中に設立されました。そのため、学内は殺風景であり当時の校長(佐藤義長校長)が専門教育にも役立つようにと、庭園の設営を計画しました。事業は大正15年か

ら始まり、学内の学生や地域の青年団の方々の労力奉仕によって大正15年の秋に完成しました。

庭園が今のデザインになったのは昭和16年頃からです。この年から翌年の秋にかけて、庭園の南部、芝生の中央のヒマラヤシーダーがあった位置に半円形の防火用貯水池が造られました。フランス式庭園は現在では宇都宮大学のシンボリック的存在であり、市民の方や学生、教官の憩いの場として大学内の人気スポットの一つとなっています。



宇都宮大学の前身宇都宮高等農林学校設立時に建てられた古い記念碑です。大正11年(1922)、この地旧河内郡平石村宇峰に国立高等農林学校が誘致され、村民一同歓喜して花木、緑樹を持ち寄り、学生と共に植樹した様子が述べられています。

(イギリス式庭園内)



#### 編集後記

本当にできるのか!?企画案をつくる授業で「学内の植物マップをつくろう!」と、特に共通点のないメンバーが奇跡的に集まり、戸惑いだらけのスタートを切りました。予算が足りない、印刷会社が見つからない、記事の文才がない(この悩みはわたしだけかも)、みんなの日程が合わず、長期間にわたって製作がフリーズしてしまった時期もありました。そんな山あり谷ありの半年+αを経て、無事に製作を終えることができ、ほっとしています。

さて、宇大に棲む魅力的な樹木はいかがでしたでしょうか?この樹木の解説は植物学的な視点ではなく、人の暮らしと樹木とのかかわりを全体的なテーマとしてつくられています。大学に来ていただき、見るだけでなく、触ったり、においをかいだり、味をたしかめたり、五感をつかって楽しんでもらえたらと思います。タイトルの「Oasis(オアシス)」は街中に位置する大学が市民の憩いの場となれるようにとつけました。緑いっぱい学内はまさにオアシス!ぜひ癒されていってください☆

今回のこの企画は宇都宮大学学務部の学生プロジェクト 予算をいただき製作したものです。

末筆となりましたが、今回この冊子を製作するきっかけをつかっていただいた、キャリア教育センター教授・宮崎 冴子先生、支援・指導して下さいました堀 強財務部長、そして樹木解説・本冊子の監修をお願いした監事・平野 綏先生に厚く御礼申し上げます。また、レイアウト・印刷などでお世話になりました井上総合印刷様に深く感謝いたしております。

なお、季節的に入手できない写真の多くを宇都宮大学樹木案内から使用させていただきました。併せて厚く御礼申し上げます。

三瓶 尚子

## Oasis 製作

代表 西野 真太(農・生物生産4年)  
堀井 克浩(工・応用化学4年)  
三瓶 尚子(農・生物生産2年)  
内橋 一市(農・生物生産1年)  
村上 和之(農・生物生産1年)  
佐々木 友美子(国際・国際社会1年)  
(※所属・学年は平成19年3月現在)  
監修 平野 綏

## 参考文献

題名	著者	出版社
原色樹木大図鑑		北隆館
和漢古典植物考	寺山 宏	八坂書房
資料日本植物文化史	有岡 利幸	八坂書房
セコイアの森	ヴァーナ・R・ジョストン	八坂書房
虫を食べる文化史	梅谷 悟	創森社
樹木と方言	倉田 悟	地球出版
同名異木のはなし	満久 崇麿	思文閣出版
本邦郷土食研究 中央食糧協力会編		東洋書館
美味求真	木下 謙次郎	酣燈社

宇都宮大学樹木案内宇都宮大学会館展示等事業推進企画グループ

「Oasis」は、「峰が丘地域貢献ファンド」の支援を受けて発行しています。

「峰が丘地域貢献ファンド」は、下記の企業等のご賛同を得て運営しています。

平成22年3月末現在

(五十音順)

 足利銀行	(株)井上総合印刷
宇都宮大学 国際学部同窓会	 宇大生協
 烏山信用金庫	 光陽電気工事(株)
 TKC	 栃木銀行
 ミニストップ株式会社	その他金融機関

## Oasis 学内樹木マップ

Utsunomiya University

発行日：平成19年3月7日 初版  
平成20年4月30日 第2版  
平成21年4月30日 第3版  
平成22年4月28日 改訂

発行：Oasis製作G

発行支援：宇都宮大学

印刷：(株)井上総合印刷



宇都宮大学  
UTSUNOMIYA UNIVERSITY